



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2015 4



3月19日(休)、兵庫県民会館にて「ひょうご消費者セミナー2014」を開催、約170人が集いました。正しく知ろうよ！健康食品～かっこいい消費者になるために～」をテーマに、武庫川女子大学 松浦 寿喜 教授が講演。「運動と休養を適切に摂って、サプリを上手に使いましょう」とお話されました。また、アド☆コン座による寸劇では身近な健康食品に関する事例を紹介。トラブルから身を守る方法をわかりやすく楽しく学びました。(関連ページ P.3)



ろっこう医療生活協同組合 専務理事
兵庫県生活協同組合連合会 監事

金丸 正樹
(かなまる・まさき)

35年目の決意

わが生協は1980年に創立総会を開き産声をあげました。つまり、今年で35周年を迎えることになりました。しかし、とりたてての感慨めいたものは湧き上がってはきません。むしろ、今年が阪神淡路大震災から20年目であることのほうが気持ちを奮い立たせます。

とはいえ、創立時から籍をおき仕事を続けてきた身としては、たしかに思いを新たにすする事柄もありました。そのひとつが「継承」ということです。自分が生協運動のなかで得たこと、学んだこと、失敗したこと、それらを若い職員に引き継いで行く仕事、定年まで残されたあと数年のテーマだとあらためて自覚しています。

それを具体化したのが「プリズム研修」です。これは、職員に医療生協運動の理念と歴史、そして未来の展望を学び合ってもらう法人内制度研修です。光線がそれを通してとでスペクトルつまり虹の七色に変化することになぞらえて命名しました（我ながら気障だなと思いつつ）。幹部職員が講師役を担い、それぞれ慌てて自学してテキストを作りました。つまり、講師こそが最も教育されたというべきかも知れません。

私もあらためて生協の歴史を繙いて、生協論や協同組合論など、昔読んだ書籍をあれこれ引つ張り出して学び直したものです。そうした書籍を読み疲れて、ふと以前に買ってあった薄っぺらいブックレットを読み返していて、わが目を撃った文章がありました。そのブックレットは「信用金庫の力」（岩波ブックレット・著者／吉原毅）。そこには脱原発宣言で注目される著者が理事長を務める城南信用金庫のさまざまな挑戦を記した最後に、「仲間うち」で内向きに固まるのではなく、「皆を仲間にする」つもりで、『日本を元気にする』という公共性、外に広がりをもった活動をしていこうと考えました」とあるのです。我が意を得たり。私も最近と同様の思いが募っていました。

生協がもつともっと大手を振って、空気のような存在として人びとのなかに入っていく。そうした自信と率直さと大胆さが求められているのではないか。

そんなことを思いながら、「まだまだ若いもんには負けんぞ」と、回りの迷惑を顧みず、今年もまたバタバタと動き回る一年となることでしょう。

CONTENTS

- | | |
|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 2. 想点 | 6. 協同組合のかけ橋 |
| 3. 「ひょうご消費者セミナー2014」報告／
兵庫JCC「協同組合研究・交流会」報告 | 7. 兵庫県のページ |
| 4. 単協通信 生活協同組合連合会大学生協阪神事業連合／
姫路市民共済生活協同組合 | 8. 『兵協連だより』通信員・広報担当者研修会 報告／
2015年度行事予定表（主要行事）／
県連日誌／編集後記 |
| 5. 単協通信 兵庫県労働共済生活協同組合／
2015年度『兵協連だより』通信員紹介 | |

「ひょうご消費者セミナー2014」を開催

3月19日(木)、兵庫県民会館にて、消費者支援機構関西 (KC's)、ひょうご消費者ネット、生活協同組合コープこうべ、兵庫県生協連の4者共催「ひょうご消費者セミナー2014」を開催しました。

このセミナーは、「適格消費者団体」や「消費者団体訴訟制度」について理解を深めるとともに、幅広い世代の消費者に健康食品についての有効性や安全性を考え、あふれる情報にだまされないコツを学ぶもので、約170名が参加しました。

冒頭、主催4団体を代表し、NPO法人ひょうご消費者ネット 亀井 尚也 副理事長が挨拶。続いて、NPO法人消費者支援機構関西 (KC') 事務局 袋井 邦昭氏が健康食品事業者への差し止め請求について報告。また、NPO法人ひょうご消費者ネット 検討委員 司法書士 茂木 昌子氏が事例をもとに適格消費者団体の活動紹介をしました。

アド☆コン座による寸劇では、健康食品に関する身近なトラブル事例を楽しく紹介。その後、武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学科 食品衛生学研究室の松浦 寿喜 教授が「正しく知ろうよ！健康食品～かしこい消費者になるために～」をテーマに、健康食品との上手なつき合い方について講演。健康食品の選び方や使い方、ジェネリックの現状のほか、「運動」と「休養」を適切に摂ってサプリメントを上手に使うこと、疑問に思ったことはホームページで調べたり地域の消費生活センターや適格消費者団体に相談してほしいことなど、被害に遭わないためのポイントを学びました。

参加者からは、「契約書を盾に、損害賠償や返金に応じない企業に対して、泣き寝入りしなくても良い場合もあるということが分かりました」「ジェネリックや医薬品についての情報もあって良かった」「理解しているつもりでも、情報に流されることも多い毎日。気をつけたいと思いました」「健康食品もいいかもしれませんが、食べ物でしっかり食生活を管理することが大切と感じました」などの感想が寄せられ、充実したセミナーとなりました。



講演される松浦寿喜教授



寸劇で楽しく学びました



参加者からの活発な質問が行われました

兵庫県協同組合連絡協議会 (兵庫JCC)

「協同組合研究・交流会」を開催

3月9日(月)、兵庫県内の協同組合4団体で組織する兵庫県協同組合連絡協議会 (兵庫 JCC) は、生活協同組合コープこうべ (神戸市東灘区) にて「2014年度 兵庫 JCC 協同組合研究・交流会」を開催。生協・JA (農協)・JF (漁協)・森林組合の組合員、役員など25人が参加しました。この交流会は、生産者と消費者が意見交換をすることで、お互いを理解し合い、生産活動や消費行動に生かすことが目的です。

今年度は、生活協同組合コープこうべの施設を訪問し、生協の取り組みを研修しました。六甲アイランド食品工場では、パン・麺類・とうふ等の食品生産の様子を見学。魚崎浜要冷蔵センターでは、野菜や冷蔵品、冷凍品を3つの温度帯で、宅配利用の組合員向けに個人別出荷するシステムを見学しました。

また商品検査センターでは、放射性物質検査をはじめとして、品質や安全を科学の目で支える検査体制を見学しました。

参加者は「商品一つひとつに、多くの人が関わって作り上げているという点が協同組合らしいと感じた」「組合員さんの素朴な疑問や知らない知識を科学的な観点からリードして正しい理解へ導くということが、非常に有意義であると感じた。組合員さんに一番近い存在であることが、安全・安心であるという大きな信頼につながっているのだと思った」「“クレーム”ではなく、“お申し出”検査への対応がこまやかで、組合員への気配りや組合員を大切にされている印象を強く持ちました」など、協同組合間の相互理解を深めました。兵庫 JCC では、今後も職員と組合員の交流の場を作っていきたいと考えています。



手際よく作業がすすめられる農産加工場



熱気のある室内でパンの製造過程を見学



商品検査センターではブラックライトを当てて手洗いチェック

生活協同組合連合会大学生協阪神事業連合

『くらしのヤングクリエイター スプリングセミナーを開催しました』

3月1日(日)、神戸市中央区の相楽園会館と兵庫県民会館におきまして、消費者・事業者そして行政の3者による「くらしのヤングクリエイター スプリングセミナー」を開催しました。当日は兵庫県下の6大学を含む学生39名の参加がありました。

午前には、消費者である大学生と事業者が同じテーブルにつき、それぞれの立場から意見を述べ、双方向からコミュニケーションを図りました。

午後からは、「くらしのヤングクリエイター活動認定証」の交付式をおこなった後、「消費者・事業者・行政によるワークショップ



研究会 (日本の大学生協と事業連合)



研究会 (会員生協から見た連帯組織)

「世代を超えて考えるネット社会」をテーマに、暮らしに欠かすことができないインターネットのメリットとデメリットを知り、ネットというツールをうまく活用しながら安全安心に暮らしていくためにはどうすればよいかを、グループに分かれてワークをしながら考えました。

今回のワークショップの特徴は、消費者である学生や社会人と、事業者として行政の3者が、互いの意見を尊重し合いながら交流し、どうすればより良い消費者市民社会を築くことができるのかを一緒に考えて考えたことです。また、夕方からの交流会では学生だけでなく、多くの事業者や行政関係者の方も参加いただき、交流は尽きることはありませんでした。まさに「消費者、事業者、行政の信頼と協働により、安全で安心な暮らしを実現する」兵庫県の消費者行政の理念を体現できたセミナーとなりました。

(通信員 藤江正俊)

姫路市民共済生活協同組合

「まもりんピック姫路」での PR活動について

3月7日(土)に姫路市立中央体育館にて姫路市消防防災運動会「まもりんピック姫路」が開催されました。姫路市民共済は、この運動会に後援し組合事業を紹介しました。

「まもりんピック姫路」は、市民と行政及び各防火防災関係団体が一体となり、防火防災意識の啓発と相互の連携を図り、お互いに助け合うことを目的とし、各種災害を想定した訓練や競技等を運動会形式で行うものです。



当組合は、この運動会の会場に専用ブースを設け、火災共済・交通共済に関するクイズを実施し、パンフレットや粗品の配布を行い、組合事業のPR活動を実施しました。来場された方からは、「市民共済に加入しています」、「火災共済では落雷の事故が多いことや交通共済では自転車事故が増加していることに驚きました」というご意見をいただきました。今後とも「顔の見える市民共済」として、事業及びPR活動を行っていきたいと思います。

(通信員 山本悠人)

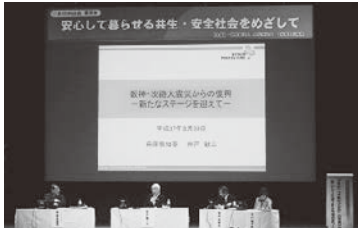
兵庫労働共済生活協同組合

講演 阪神・淡路大震災20年

全労済協会 講演
防災・減災を考える
 安心して暮らせる共生・安全社会をめざして

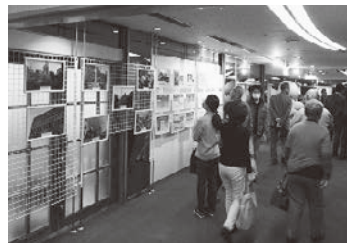
2月28日(土)、新神戸オリエンタル劇場(神戸市中央区)にて、全労済協会主催講演会「安心して暮らせる共生・安全社会をめざして」(共催/兵庫県、後援/兵協連・全労済兵庫本部ほか)が開催されました。

日本総合研究所 理事長・寺島実郎氏による基調講演のあと、井戸敏三・兵庫県知事、ひょうご震災記念21世紀研究機構 副理事長・室崎益輝氏、認定NPO法人コミュニティサポートセンター神戸 理事長・中村順子氏が「『自助・共助・公助』の役割分担と安心して生活できる地域社会づくり」をテーマにパネルディスカッションの様子



パネルディスカッションの様子

スカッシュロ
ンを行いま
した。
会場口
ビーでは、
兵庫労働
(全労済兵
庫本部)
として、阪



会場ロビーでのパネル展示

神・淡路大震災に関するパネル展示や、「防災・減災 標語コンテスト」のPR・作品募集を行い、参加者(636名)の皆さまにとつて、阪神・淡路大震災から20年という節目に「防災・減災」についてあらためて考えていただく機会となりました。

兵庫労働(全労済兵庫本部)では、今後も、様々な取組みをつうじて、阪神・淡路大震災の体験を風化させることなく、災害に備える重要性を伝え、広めていきます。

(通信員 鶴田和彦)

2015年度「兵協連だより」通信員紹介

2015年度の「兵協連だより」の通信員のみなさまざまです。今年度もよろしくお願ひします。

購買生協	
生活協同組合コープこうべ	榊原 晶子 さん
佐曾利消費生活協同組合	後北 信子 さん
生活クラブ生活協同組合都市生活	紺本 直 さん
生活協同組合コープ自然派兵庫	古村 剛 さん
生活協同組合連合会コープ自然派事業連合	西本 亮 さん
西宮市職員生活協同組合	宮田 正樹 さん
尼崎信用金庫職員生活協同組合	下山 正一 さん
大学生協	
神戸大学生生活協同組合	坂本 安弘 さん
関西学院大学生生活協同組合	池上 正寿 さん
神戸市外国語大学消費生活協同組合	衛藤 昭二 さん
甲南大学生生活協同組合	中谷 満子 さん
兵庫県立大学生生活協同組合	藤井 貴浩 さん
神戸薬科大学生活協同組合	大西 範和 さん
神戸親和女子大学生生活協同組合	今村 奈星 さん
大手前大学生生活協同組合	斉藤 和久 さん
園田学園女子大学生生活協同組合	塩野 晴也 さん
甲南女子大学生生活協同組合	塩田 恵美 さん
神戸市立工業高等専門学校生活協同組合	久保田尚稔 さん
生活協同組合連合会大学生協阪神事業連合	藤江 正俊 さん

医療生協	
神戸医療生活協同組合	中西 一真 さん
尼崎医療生活協同組合	杉山 貴士 さん
阪神医療生活協同組合	岩崎 仁一 さん
宝塚医療生活協同組合	前田 秀輔 さん
姫路医療生活協同組合	岡田 佐織 さん
ろっこう医療生活協同組合	古市 賢二 さん
たじま医療生活協同組合	春木 圭介 さん
ひまわり医療生活協同組合	酒井 成美 さん
共済生協	
神戸市民生活協同組合	鹿田 裕子 さん
尼崎市民共済生活協同組合	中畑 貴喜 さん
姫路市民共済生活協同組合	山本 悠人 さん
西宮市民共済生活協同組合	白井 浩 さん
兵庫労働共済生活協同組合	中川 純一 さん
生協以外の会員	
近畿労働金庫兵庫地区統括本部	井奥眞貴子 さん

*変更・継続のご報告をいただいていない会員につきましては、2014年度通信員を継続掲載しております。ご変更の場合は、お手数ですが兵庫県生協連までご連絡をお願いいたします。

JF 淡路地区漁協青壮年部連合会

「淡路の魚をもっと知ってほしい！」 ～淡路漁青連が小学校で料理教室～

『子供たちに淡路の魚の良さを知ってもらおう』と淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長：JF 淡路島岩屋）では、2月17日（火）南あわじ市立市小学校の5年生児童ら33名を対象に料理教室を開催しました。



同漁青連 渡邊 直部員（JF 由良町）が講師を務め、まず、サヨリの捌き方を鮮やかに実演しました。その後、各テーブルに分かれた児童の実習が始まりました。普段は魚に触れる機会がない生徒が多いため、最初は戸惑っていましたが、いざ捌くとすると集中して上手に捌いていました。テーブルごとにサポートした部員や洲本農林水産振興事務所職員の的確な指導もあり、全員が無事にサヨリを三枚におろすことが出来ました。先に捌いた生徒は同じテーブルの生徒にも捌き方を教えていて、捌き方が身についたようでした。

次に、アカシタビラメのソテーを調理しました。生徒達は始めてみるアカシタビラメに「こんな魚がいるんだ。」と驚いた顔をしていましたが、上手く捌いていました。



皆さん、マスクにバンダナが良く似合っています

三枚おろしのサヨリは造りになり、アカシタビラメはソテーに、他に淡路島産のワカメを使用した酢の物と味噌汁、ご飯と一緒に美味しく頂きました。

普段はあまり魚が好きではなかった児童もいましたが、今回の料理教室を通して魚が好きになったようで、料理教室が終わってからも「今日、自分で捌いて食べた魚が美味しかった。」と皆、興奮していました。

料理教室を通して、淡路の魚の美味しさは勿論のこと魚体の様子や食べ方など、いろいろなことを知ってもらう良い機会になったと思います。

JA 兵庫南

ジャガイモ植え付け体験 インフォーマーシャル撮影も

JA 兵庫南農産物直売所ふぁ～みんSHOP かんき運営協議会は2月15日、加古川市西神吉町の圃場でオーナーによるジャガイモの植え付け体験を行い、家族連れなど約150人が参加しました。このイベントは、植え付けから収穫までの体験を通じ、食の大切さを感じてもらおうと、一口10株1,000円でジャガイモオーナーを募集しています。同町の西脇営農組合と同JA かんき支店、ふぁ～みんSHOP かんきが協賛し、ボランティアとして神戸学院大学の学生も参加しました。

参加者は種芋を切って植え付けを行い、終了後は地元の野菜を使った豚汁が振舞われました。

同運営協議会の長谷川博信会長は「スーパーマーケットでは味わえない野菜の本当の味を知ってもらい家庭に届けたいです。若い人たちにも、関心を持ってもらい輪を広めていくことが目標です」と話しました。

また、この様子はJA 全中が作成するインフォーマーシャル（情報発信に重点を置いた広報）として食農教育をテーマに撮影が行われました。インフォーマーシャルは3月中旬の「アグリンの家」CM枠で放送されました。その他にもJA グループのイメージアップに活用される予定です。



植え付けに気合いを入れる参加者



最近の消費生活相談事例

うまいもうけ話に要注意！！

事例

証券会社の社員を名乗る人から電話があり、「あなたが選ばれた。選ばれた人にだけ案内している。A社の社債を買って、後日売ればもうかる」と言われたが、「興味がない」と断った。後日また電話があり、「あなたの社債購入の権利を譲ってほしい」と言われた。不審だ。

【アドバイス】

詐欺的なもうけ話に関する相談が、高齢者を中心に多く寄せられています。特に多く見られる手口は、複数の人物が役回りを分担して消費者をだまそうとする劇場型勧誘による「買え買え詐欺」です。この手口は消費者に電話や封書で、実態のない会社の「社債」や「未公開株」などを、「限られた人しか購入できない」「代わりに購入してくれたら高値で買い取る」「絶対に損はしない」などと言って勧誘します。また、お金を支払った後、事業者とは連絡不能になることがほとんどです。その上、被害に遭った人がさらなる投資話や「被害を回復してあげる」といった2次被害につながる勧誘を受けることもあります。

最近では、iPS細胞や、東京オリンピックなど社会で話題になっている事業に関する投資の勧誘が多く報告されています。

「代わりに申し込んで」「名義を貸して」などと持ちかけてくる不審な電話は、相手にせず、すぐに電話を切るようにしましょう。

少しでも疑問や不安を感じた場合には、お金を払う前に、すぐにお近くの消費生活相談窓口にご相談ください。

(兵庫県生活科学総合センター)

適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット

ヨッシーの窓



兵協連だよりをご覧のみなさま。はじめまして。適格消費者団体NPO法人ひょうご消費者ネットの吉江直記と申します。これから、毎号、ひょうご消費者ネットのことや私自身のことをお話していきたいと思えます。

さて突然ですが、みなさまは「適格消費者団体」ってご存じですか？

初回ですので、適格消費者団体の紹介をさせていただきます。

みなさま、普段の生活の中で、こんな経験はないでしょうか。

「解約金がこんなに高額なの？」「一切責任を負いませんと書いた書類に署名しないと契約できないの？」「この商品の表示は、おかしいのではないか？」

そんな場面に出遭った時、みなさまなら、どうしますか。「仕方ない」と諦めてしまう、事業者に交渉を試みる、どちらかだと思えます。

適格消費者団体は、事業者に対して、そんな契約を改善するよう申入れ等を行っているのです。そして、ひょうご消費者ネットは、兵庫県唯一の適格消費者団体なのです。

来月号では、実際の活動をご紹介します。これからも、お楽しみに。

(ひょうご消費者ネット 理事 司法書士 吉江直記)



連絡先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通五丁目7番11号兵庫県母子会館2階C
TEL: 078-361-7201 E-mail: office@hyogo-c-net.com

MOVE

“情報”を明日への希望につなげて

～「兵協連だより」通信員・広報担当者研修会を開催～

3月17日(火)、神戸新聞社(神戸ハーバーランド本社)にて『兵協連だより』通信員・広報担当者研修会を開催。10生協1団体を含む16名が参加しました。今回は2014年度兵庫県生協連の活動方針のひとつ「阪神・淡路大震災20年」をテーマに、震災報道の歩みをたどり、また新聞づくりのポイントを学び広報活動の力量アップを図ることが目的です。

編集局や情報技術局では、記者の方々が発刊にむけて準備されている様子をガラス越しに見学。新聞づくりの編集現場をご案内いただいたあと、ハーバーランド本社2階の報道展示室「ニュースポート」の見学へ。映像やパネル展示のほか、阪神・淡路大震災発生当日、京都新聞などの支援を受けて発刊した夕刊から1週間の紙面などを展示。震災報道は、刻一刻と変わる被害状況を伝えるだけでなく、「情報」が被災者の生きる希望へとつながっていくというお話を伺い、新聞製作への熱意を感じました。



報道展示室では震災当時の報道の状況を伺う



新聞づくりの基本を学ぶ参加者

その後、神戸新聞社 新聞づくり教室講師(記者OB)小材 天良 氏より、写真撮りのポイントや見出しのつけ方、紙面レイアウトなど、新聞づくりの基本を学びました。

参加者からは、「情報を紙面にしていくまでのプロセス、技術、心構えなどがよくわかりました」「普段は読み手の立場で新聞や記事を見ているが、書き手である現場を訪れたことが収穫でした」などの感想が寄せられ、短い時間でしたが日常の実務に役立つ研修会となりました。

◆ 2015年度行事予定表(主要行事) ◆

*変更になる場合があります。

	開催日	兵協連 主要行事/研修
4月	4/6(月)	兵協連 第6回理事会/第1回役員推薦委員会
5月	5/21(木)	兵協連 第2回役員推薦委員会
	5/26(火)	兵協連 監事会・監査
6月	6/1(月)	兵協連 第7回理事会
	6/23(火)	兵協連 第65回通常総会・第1回理事会
7月	7/3(金)	第93回国際協同組合デー・兵庫県記念大会
8月	8/3(月)	兵協連 第2回理事会
	8/23(日)	兵協連ピースアクション2015 広島被爆ピアノ平和コンサート
10月	10/5(月)	兵協連 第3回理事会
	10/8(木)	2015年兵庫県生協大会
12月	12/7(月)	兵協連 第4回理事会
2016年	1/9(土)	新春トップセミナー・賀詞交換会
1月	1/14~21の内の5日間	兵協連第11回初級経営学校
2月	2/1(月)	兵協連 第5回理事会
	2/23(火)・24(水)	兵協連第13回税務・経営講習会

編集後記

☆いつもは、講師をお迎えしての「兵協連だより」通信員・広報担当者研修会(上段参照)ですが、今年には神戸新聞社へのおかけ研修会になりました。新聞づくりの講義を受け、「読者に記事を読んでもらうためには、生き生きとした見出しやキヤッチコピーが重要」とのこと。日頃のわが身を振り返って背中をツツと汗が。うーん、まだまだ修行が必要です。☆さて、今月から新連載「ヨッシーの窓」が登場です!とてもフレンドリーな吉江氏の趣味は多彩に、ギター、バドミントン、アマチュア無線。好きな本は「赤毛のアン」。今後、どんなお話が伺えるか楽しみです。消費者トラブルの未然防止に向けて、「兵庫県のページ」と合わせてご覧いただきますよう、よろしくお願いたします。(中尾)

県連日誌

4月6日(月) 兵協連第6回理事会

第1回役員推薦委員会
(県民会館 1201)

